

DIPLOMA WORKS

2022

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY DEPARTMENT OF ARCHITECTURE

展示期間

2023年2月4日（土）－ 2023年2月17日（金）

学内講評

2023年2月6日（月）

八雲賞審査会

2023年2月12日（日）

東京都立大学南大沢キャンパス国際交流会館



八雲賞審査会
プログラム



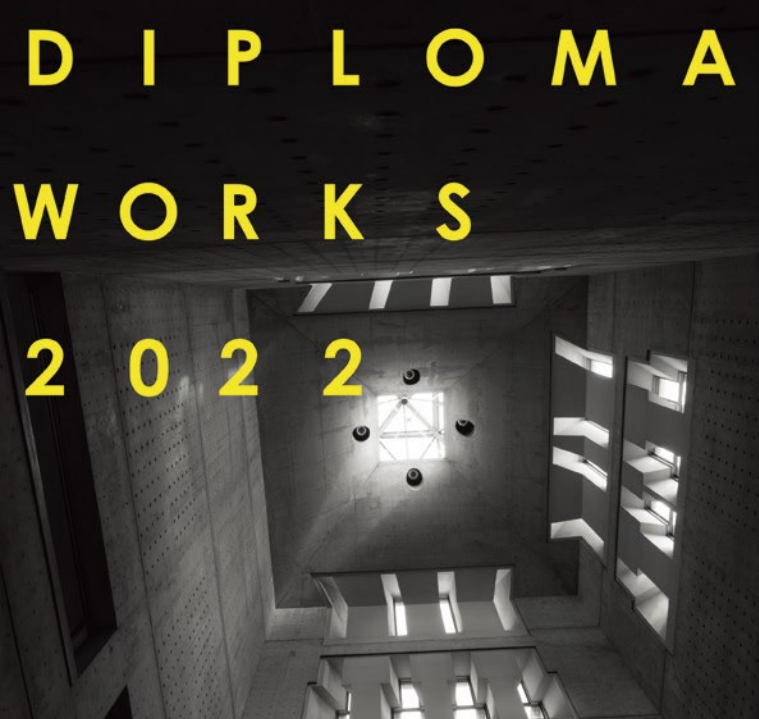
八雲賞審査会を
zoomでご視聴
された方はQRコ
ードのwebフォ
ームにてお申込
みください



INSTAGRAM



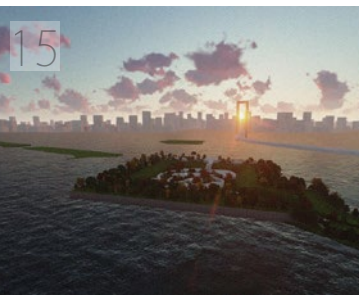
TWITTER



江ノ電沿線に住む
川上 夏穂

敷地： 神奈川県鎌倉市
用途： 集合住宅

線路側玄関住宅・勝手踏切・線路空間での園芸等、江ノ電沿線では敷設の経緯に由来し、独自の特徴が見られる。この電車を通る非日常的な空間が日常に溶け込む様子は、一般的な線路にはない江ノ電の魅力である。一方、これらの特徴を持った沿線空間は減少しており、認識もあまりされていない。そこで、沿線に形成される特徴を取り入れ、共存関係に気づかせる、また維持向上させる集合住宅を提案する。



故人との記憶を希薄化させない火葬場の提案
坂本 航真

敷地： 台場公園（お台場）
用途： 火葬場

火葬場は火葬時の煙や匂い、死体が存在するというイメージから建設には反対運動をされることが多く、火葬場に対する偏見や嫌悪から火葬場は忌むべきものとしてみなされ、人里離れた山奥や、例えそうでなくとも高い塀や仕切りで目隠しするなど、日常の一部から切り離して設計されてきた。しかし、「死」を私たちが暮らすこの世界とは切り離して考えるこの風潮は果たして正しい方向なのか。死を再認識させてくれる機会を有する火葬場において、その体験・記憶がその後の生活においても認識し続けられていくような故人との別れを可能にする火葬場を計画する。



建築に擦り寄った記録
小林 楓太

敷地： ？
用途： ？

これは、私が建築に触れていく中で感じたことを記録したものです。一度触れてしまった建築は、離れても、何かのきっかけで動く、自分の中の違和感として残っていくと想像できます。もう一度自分の中の建築と対話すると共に、今の新鮮な状態の感覚は、いつかの自分にとってどのように映るのか、それを知りたいと思い制作しました。違っているかもしれませんが、これが今の私なりの、建築と向き合うということでした。



スキマ植物と暮らす～排除から活用へ～
早田 直

敷地： 渋谷区笹塚
用途： シェアハウス＋複合

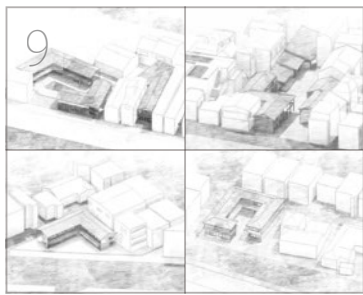
都市では、どこにでも作れる建築空間が増え続け、今では地域特有の魅力が見えにくくなってきている。テレワークなどにより大都市にすることに意味が薄まった時、都市はどうなるのだろうか。本提案では自ら好んでその環境に暮らす”スキマ植物”の魅力を最大限活かした建築設計をすることで敷地の独自性を高める建築を計画する。



空き道
板垣 諭史

敷地： 大宮氷川神社参道
用途： 参拝体験の強化

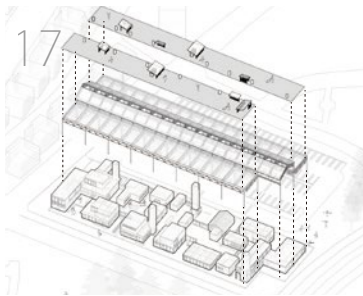
現状は参道の持つ往路と復路に「参拝」と「街歩き」という独自の二面性が混在しており、「輪郭を帯びていない空き」と捉えることができる。また神道では、何もない空間や自然物に輪郭を与えて神を見立てることから、神道に倣い輪郭を与えるように往復路に境界をつけ体験を切り替えることで、参道を歩く体験自体が価値を帯びていく。神を見立てる神道のように、空きを見立て新たな価値を創出することを「空き



リトル・アーティスト・ビレッジ/ストリート
張本美晴

敷地： 谷中・根津・千駄木
用途： シェアハウス

マンションや駐車場として現在使用されている土地から特色あるもの4つ選び、若手アーティストのためのシェアハウスとして設計した。1Fを店舗兼アトリエ、2Fを生活空間とし、リビングは外部の人とシェアする。このユニットで構成された施設＝村を周辺の空き地に波及させていくことで、アーティスト・来訪者が交流できる道となる。



資源的マーケットの構築
田畑 快人

敷地： 東京都八王子市
用途： 商業施設、リサイクルセンター、農園

食を中心とした資源の問題を解決するためのマーケットの計画。身の回りの環境から様々な資源を集め、生産、貯蔵し、消費してから分解することの一つの施設で可能にするマーケットの形態を資源的マーケットと名づけ提案する。それにより、生産過程で発生するごみの量を削減し、エネルギーの使用量を抑えることが可能となり、エコロジカルな技術や習慣を身につけられる環境を生み出すことを目指した。



THE THEATRE CITY
小川 拓也

敷地： シモキタ
用途： 文化施設

都が進めている 54 号道路計画が無くなった場合の世界線。かねてより反対運動対行っていた住民たちは悲願の成就を祝して祝祭空間を求める。広がった祭の輪は文化となり日常を彩る。コミュニティを形成した文化のために集積地となりうる創造活動のための文化施設を計画した。



ウチワほいく
押田 麻衣

敷地： 大田区西馬込
用途： 共同保育所

群れて、支えあい、学びながら新たな毎日を生きる我々にとって、現代の保育の場は仲間をつくるのに難しい。親たちが保育所内に紹介し、保育所の運営や共同作業を通して、かつてのムラと代わり保育所を媒体とした保育のメンバーシップを形成することを目指す。保育というコモンズを枯渇化させないためにはオープンアクセスではなく、管理する対象や領域を定め、内輪を深めていく必要があるのだ。



和田堀給水所跡地計画
～新興スポーツによる住民の目常と街の遺構～
渡部 隼人

敷地： 東京都世田谷区代田橋駅
用途： スポーツ施設、公園、広場

現在のこの敷地は駅前に滞留区間がないこと駅前に何も無いことから人が集まることのない魅力度に欠ける駅となっている。しかし、京王線連続立体交差事業、和田堀給水所建替事業、都市計画道路事業という三つの事業が計画されている。これらに合わせて交通問題の改善や街並み整備とともに、世田谷区のシンボルにもなっている和田堀給水所を残しつつ、東京オリンピックにより生まれた新興スポーツという新たな観点から人々の交流を生み出し街の新たな活動拠点となる駅前空間を提案する。



庭路地のリビング
宮下 恵里花

敷地： 大田区南馬込
用途： 共有路地・施設＋住宅

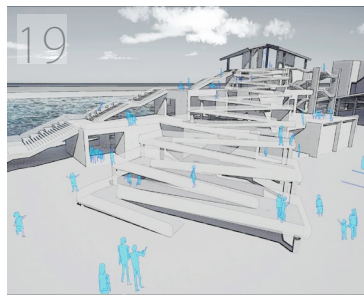
地形が入り組んだ住宅街「南馬込」は階段によって袋小路化し、車が通過できない路地を多くもつ。それは車と切り離して住まう可能性になるのではないかと本提案では、袋小路化した路地のひとつを敷地として選定し、路地の入口に関門を設け、車のために整備されていたコンクリートを土に戻し、共有の水回りを路地に配置することで、庭のように地域のリビングとなる路地とそれに面する住居のあり方を提案する



tool sharing
玉地 沙季

敷地： 葉山上山口の棚田
用途： 農業宿泊体験施設

傾斜の多い日本に多く存在する棚田。傾斜に沿って段上に連なるたんばは、山の水脈を整えるダム役割を果たし、生物多様性を保全する役割を担う。しかし高齢化や農業の衰退が進む現代では、多くの棚田が耕作放棄地になっている。本計画では日本の美しい原風景でもある棚田を残していくために、誰もが技術の交換をしあえる、街の新たなネットワークの拠点を設計する



海と暮らす街の避難場所
小松 瑞貴

敷地： 静岡県用宗
用途： 津波避難施設

津波から人々を守る避難タワーは、非常時のみの利用で武骨なものが多い。合理性・経済性を考えつくられた避難場所は、避難者が本当に安心できる施設であるのだろうか。シラス漁が盛んで海からの恩恵を受ける街の漁港に、日常的に利用され防災の拠点となるような津波避難施設を提案する。地震発生時に逃げ込みたくなるような建築で、津波が引くまでの一時的な避難場所として、避難者に安心感を与えるような存在となることを目指す。



江戸川金魚養殖ミュージアム
山本 匠真

敷地： 東京都江戸川区
用途： 養殖場 水族館

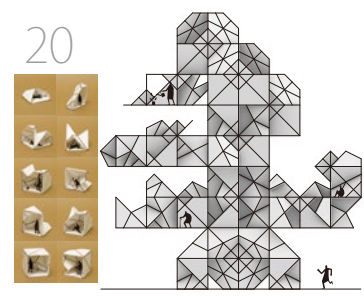
江戸川区はかつて金魚養殖の日本三大産地だった。この街では開発によって金魚養殖業者が廃業するケースが多い。加えて、コロナ禍で夏祭り中止に伴う金魚すくいの機会の減少が金魚文化の衰退に拍車をかけ、金魚鑑賞の価値は忘れ去られようとしている。伝統文化の衰退と金魚鑑賞の機会の減少を問題意識とし、人々と金魚を繋ぎとめる養殖場を計画する。金魚養殖文化の保存と金魚鑑賞の価値を訴えかける提案。



新しい廃校と公園
加藤 軸

敷地： 旧柳北小学校、柳北公園
用途： 宿泊施設、公園

現在廃校となっている台東区にある復興小学校の一つでもある旧柳北小学校と隣接している柳北公園を対象としている。歴史ある学校なのでファサードと柱割はあまり変えずに今ある姿を残したまま一般人が利用しやすい用途でもある宿泊施設にコンバージョンした。また、学校に隣接している公園を北側の高校を含めた一区画の中心となるように配置、姿等を変化させて動線を増やし、空間面と機能面の二つを付与した。



ペンタドロン建築形態実験
田中 一成

敷地： 不特定
用途： 集合住宅

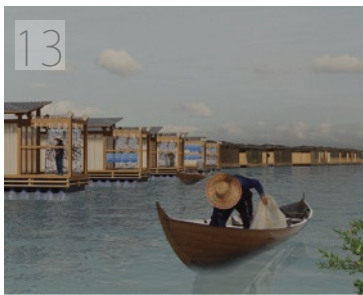
さまざまな要素が入り乱れ、ごちゃごちゃした様相をカオスと呼ぶ。カオスには人を魅了する力がある。私は、個々の要素が個々の合理性をもち、集積することでカオスとなると考えた。集合住宅では、要素は住人、合理性は住人の求める暮らし方になる。様々な要望に応えられる多様さを持つ形態としてペンタドロンを最小ユニットとした。ペンタドロンによる空間のかたちと増改築を行った際の建築のかたちを成果物とする。



kamoshi
三澤 楓

敷地： 長野県小布施
用途： ワイナリー兼温泉

訪れた人が滞在し醸すようなワイナリー。開放的なワイナリーに温泉と宿泊施設を併設。その空間をワイナリーの生産を表すような門型のアーチの連続で構成した。



Mangrove Floating Village（スラム規制とマングローブ林保護）
タシヤ アデリナ

敷地： ムアラ・アン、ジャカルタ、インドネシア
用途： 住宅街、パブリック空間

ジャカルタの主要な漁業中心地の一つであるムアラ・アンケを洪水から守る堤防に沿って、多くの違法住宅が見られる。これらの違法住宅は、適切な構造を持たず、生活する空間として状態も良くない。これらの家の存在は近くのマングローブ林を脅かしている。昔、インドネシアのスルタン時代に土地を所有出来なかった庶民は水辺に筏の家を建てるようになった。このコンセプトを再現し、違法住宅のスプロールを抑制し、地域に新しい価値を与えることは目的である。



「生きる高さ」
樗木 理有

敷地： 日野市落川交流センター
用途： 文化交流施設

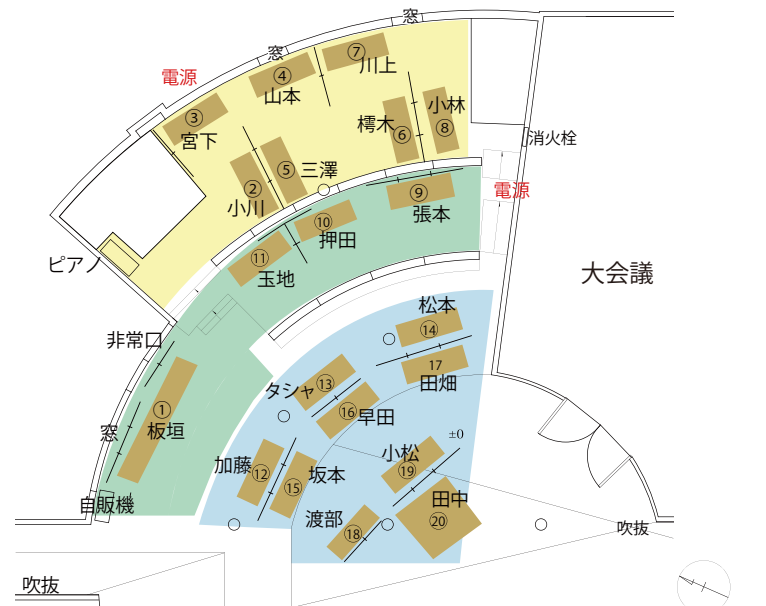
日野市浅川の土手沿いに位置する落川交流センターは園内に特徴的な円形水田を持つ緑地公園付属の文化交流センター。本設計は「交流の場としての水田」に着目した提案を行う。緑地公園内に存在する円形水田から着想を得た、多世代が自らの居場所を自由に選択できる空間として「円形棚田」型の建物構造を提案する。スラブのレベル差によって居場所を分けることで柔軟な施設利用が可能となる。



ヒト・モク交差点
松本 勇生

敷地： 東京都檜原村
用途： 製材所・他

木材利用が活発化している現代、木材を使うことのみが独り歩きし目的化していることに違和感を感じている。東京都あきる野市の山あいを敷地として、樹木の性質と山の現状を反映した木材生産の拠点を提案する。小規模林業家が共同で運営する製材所をつくとともに、生産の過程を開くことで林業の町の風景として立ち現れる建築をつくる。



国際交流会館展示スペース平面図